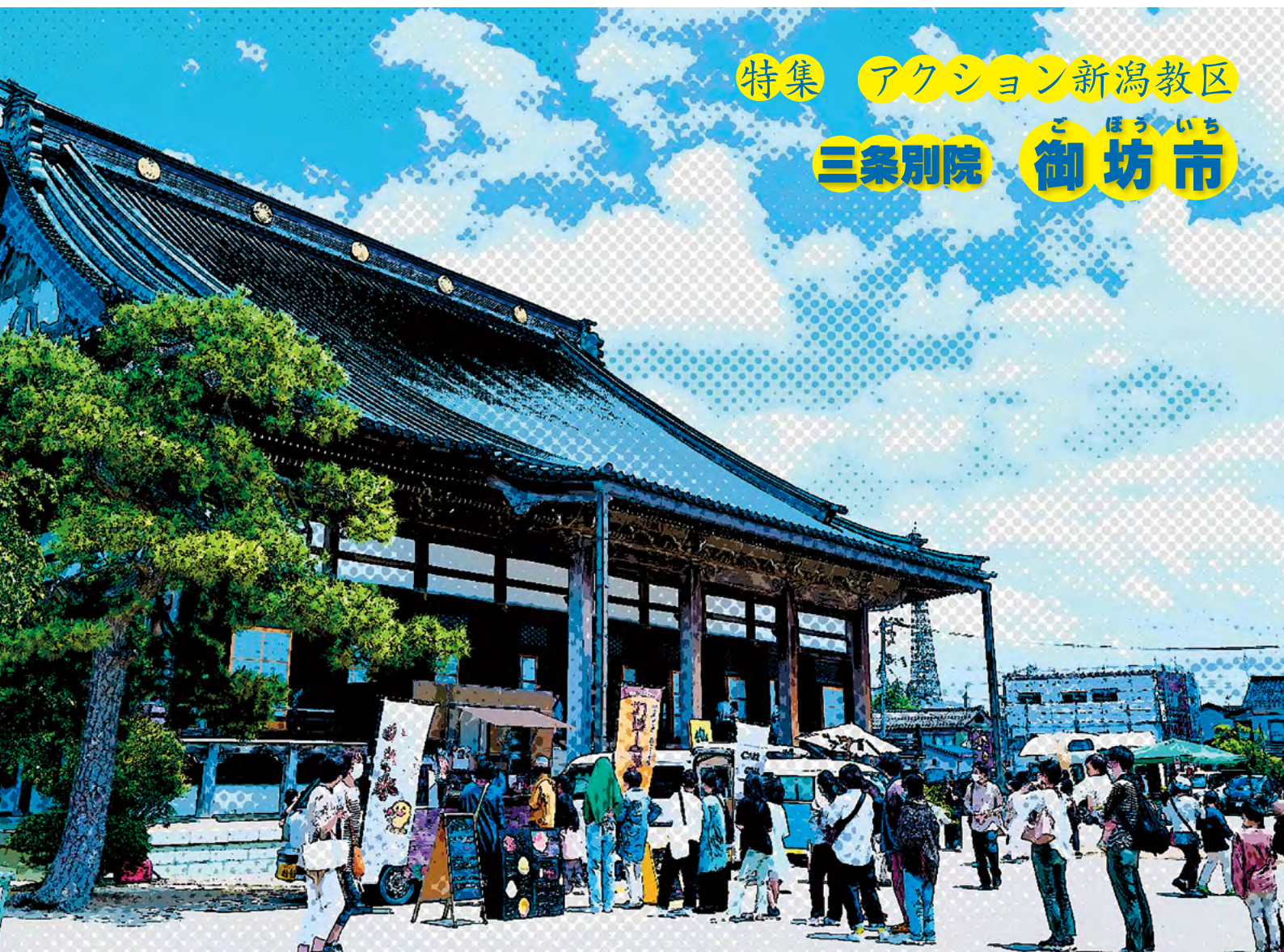


門徒へとどけたい  
門徒からとどけたい

新潟教区機関誌「聲」

第3号

2026年1月1日



特集 アクション新潟教区

三条別院 御坊市

— 目次 —

p2 アクション新潟教区「三条別院 御坊市」

p7 門徒の声「高田別院報恩講 帰敬のつどい」

p9 よもう はなそう 本のオススメ

p10 通信員だより

新潟教区ホームページ



<https://otani-niigata.jp>



【取材先】

三条別院  
こほういち  
御坊市



「御坊市」開場直前に本堂前で並ぶ来場者



むらやまたかひで  
村山尚秀さん

(御坊市実行委員長／第22組浄音寺副住職)

毎年6月頃、三条別院を会場として御坊市が開催されます。お寺に人が集うことをコンセプトに、約80店舗に及ぶ飲食・物品販売や念珠作り体験、僧侶による説教部屋などを通して、多くの人にお寺・仏教に触れる機会になればと願って企画された催し物です。今回、御坊市実行委員長である村山さんにお話を聞きました。

Q 御坊市が始まったきっかけは？

聞くとところによると、数十年ほど前に「三条別院フォーラム」という名称で「お寺を地域に開いていく」というコンセプトで旧三条教区の諸先輩方が始められたのがきっかけで、それから外部の方にも参加いただきながら現在の「御坊市」の形になりました。新型コロナウイルスの影響で3年間開催できませんでしたが、これまで11回開催しています。

Q 御坊市を開催している現在の目的は？

今現在の目的は、主に若い方に目を向けて、三条別院という場所を地域に開いたお寺にしたいというものがあります。人々がお寺で交流することによって、お寺や仏教に少しでもご縁を持っていたく出会いの場となっていきたいという願いがあります。

Q 一般のマルシェなどと比べて御坊市の魅力とは？

やはりお寺、境内地でやるということに重きを置いているので、御本尊を中心に据えて行うところに一番の違いがあります。僧侶スタッフは法衣を着ているので、お坊さんっていう存在を認知してもらいながら、仏教に触れる機会を提供できていると思っています。お寺って敷居が高いと思われがちだと思うので、それは私たち僧侶の責任でもありますし、それを崩していくのも私たちの役目だと思います。そのような意味で一般的なマルシェと違う魅力かなと思います。

## Q 御坊市はどのように計画・準備されますか？

「御坊市実行委員会」は、委員長である私と副委員長、出店・広報・会計・書記・庶務・儀式の各担当と、全体補佐、そして三条別院の列座さん1人を加えた10人体制で計画・準備をおこなっています。

御坊市は毎年6月頃に開催していますが、その後お盆と秋のお彼岸を終えてから準備を始めていきます。大体12月頃から毎月、実行委員会の会議をもちまして、それと同時期に店舗の募集をかけます。そして年明け2月頃には出店される店舗の抽選・選考をさせていただきます。その後チラシとポスターに着手して、4月頃に校了します。その後は各ブースの準備、例えば「説教部屋」の講師選定や食品営業許可などを進めます。他にも保健所に許可を取ったり、仮設電気工事の依頼や駐車場計画をしたり、色々やることであって大変です。

## Q 出店する店舗はどのように選びますか？

今年の出店数は86店舗だったのですが、応募数はその倍ありました。出店を希望するお店は様々ですが、選ぶ基準としては、自分の好きな物を好きな人に売っていただきたいという、売る人のこだわりを感じられるようなコンセプトがあるので、お祭りによくある屋台のようなお店ではなくて、「これはいいな」と思えるような店舗を選考させていたんでいます。

御坊市は10年以上開催していますので、常連のファンの方もたくさんいらっしゃいます。昨年は約4,000人来場されたのですが、まだ新型コロナウイルスの制約の中で開催したときは約7,000人来場されました。皆さん、御坊市を待ちわびていたんでしょう。その時はマスク

の着用をお願いし、入場規制もかけたくらいです。そういう御坊市としてのイメージブランドのようなものを大切にしたいという思いもあって、「御坊市は面白い店舗が揃ってるね」という声を裏切らないように、限られた予算の中で気を配るようにはしています。

## Q 工夫したり気をつけたりしている点は？

「若い方に目を向けて」という話をしましたが、若い方ってお寺にあまり興味がなく、行く機会もほとんどないと思いますので、そういう方に少しでも仏教に触れていただいて、頭の片隅にでもお寺の記憶が残ってくればいいよね、ということのスナップ同士で話し合っています。世代間でもお寺に対する考え方が違うというのは当然あります。実際は御坊市には三世代が一緒に来ることもあり、そういう方々が御本尊の前で一緒に合掌してお焼香をしてお経を聞くといい姿が、御坊市にはやっぱり必要だよ、



買い物客で賑わう本堂内

という話はしています。また、教化活動みたいなものは極力しないようにして、気軽にお寺での時間を楽しんでいただけるように、ということを考えています。

## Q 現在抱えている困難や課題は？

やはり、「人手不足」です。この問題はどの団体さんでもあると思いますが、僧侶の人手が足りないのです、どんな若い人たちにスタッフになっただけのように努めています。また以前は外部のスタッフにも関わっていただいていたのですが、経費の面も考慮して、昨年から内部のスタッフのみで進める体制に切り替えました。近年、様々なものが高騰していますし、御坊市でも特に資材費や輸送費、工事費など多方面で予算の問題もあります。出店希望の店舗はたくさんありますので、出店料で資金不足を解消することも考えられます。しかし、先ほど申しました「御坊市のイメージブランド」を保てなくなる恐れもあるため、バランスを取らなければなりません。

## Q 出店者や来場者からは、三条別院で開催される

### 御坊市に関してどのような声を聞かれていますか？

初めて参加される方も毎年参加される方も皆さん口を揃えて「この環境で参加できることがすごく嬉しい」とお話いただいています。私が本堂に設置された本部の席にいますと、本堂に足を踏み入れた来場者さんから「うわぁ」と歓声が上がったり、キラキラの御本尊を見て「なんて言うんだろうね、あれ」といった言葉が聞こえてきます。毎年出店され

ているお店の方も御坊市を楽しみにしていただいている。「色々なイベントがある中でも御坊市には必ず出たい」という言葉もいただいています。

年々御坊市に対する意識が高くなっていると感じます。そういうご意見をいただくと「やって良かった」と思いますし、今後もイメージは崩さないでやっていきたいなと思いますね。「どうやってら御坊市に出られるんですか？」なんてことも聞かれますし、「来年もまた来ます」と言われると「ああ、やめられないな」という感覚になりますね。



「三条別院ツアー」で説明を受ける参加者

## Q 最初の頃と比べて変わった事、あるいは変わらず継続していることは何ですか？

お寺を開いていく、お寺を中心として仏教に触れる機会を作っていく

という願いは一緒です。僧侶が携わる部分では、「念珠作り」「説教部屋」「御坊市子ども探検隊（スタンプラリー）」は変わらず続いています。昨年からは新たに「勤行」の時間を設けました。

また、他団体との交流をこれからも大事にしたいと思っています。一昨年と昨年は若

坊守会さんに関わっていただき、昨年は三条エリアの坊守会さんからも出店していただきました。高田エリアからお話をいただいています。新潟教区として1つになったので、三条エリアに留まらず、どの団体さんでも「こんなことをやりたい、思いを共有したい」と思っていただけるのであれば、一緒に御坊市を作り上げていきたいと思っています。

また以前は、三条別院の同朋会館は土曜日に真宗学院の講義があつて使えなかったのですが、教務所長さんや講師の方に頼み込んで、一昨年からは全館を使用させていただくことになりました。おかげで出店者さんのブースを増やすことができました。特に飲食物の店は売り切れてしまふことがありましたので、そうすると来場者さんも悲しそうな顔をされます。そんなことがないように、なんとか出店数を増やそうということをお願いした次第です。もちろんスタッフにも御坊市を楽しんでもらいたいという思いもあります。



僧侶スタッフによる勤行

## Q 今後の目標や望むこと、挑戦したいことは？

御坊市が続いていつて欲しいということが一番の思いですね。個人的には、三条別院には「お取越（報恩講）」の他に「御坊市」があるというふうに、また三条は「鬼踊り」だけじゃないということを地域の人にも思ってもらえるような行事にしていきたいなと思います。それをどうにか教区や本山にももっと知っていただきたいです。新潟教区はこんなすごいことをやっているんだと。

また高田エリアでも同じようなことをやっていただけたらいいなと思いますね。以前、高田別院に初めて伺った時、周りにお寺がものすごくたくさんあったので、そういう所を活かして何か面白いことができそうだな、と感じました。

挑戦したいこととしては、現在御坊市は、昼間だけの2日間の開催ですが、例えば朝から夜までの一日の開催にしてみてもいいんじゃないかって話もしています。夜の別院の雰囲気とか、また違ったことができるんじゃないかって。コンセプトは変えずに、という部分は絶対大事ですけども、同じことの繰り返しも面白くないので、ちょっと新しいことをやってみたいという思いもあります。

【取材日 2025年10月3日】



## 2025 御坊市・僧侶ブーススタッフより

### 「三条別院ツアー」

担当 海野 聡さん

(三条別院非常勤列座)

4月より別院に勤め、御坊市にも初めて携わらせていただきました。準備の際から、御坊市の雰囲気だったりについて伺っておりましたが、実際に始まると想像以上の盛り上がりに驚きました。私事です、今年の3月に長野の自坊の方でも境内地を利用したマルシェを開催しましたが、御坊市と共に、普段お寺に来ることがないような方々も多く足を運んでいただきました。昨今、「寺離れ」は宗門の課題の一つであると思います。その中で、このようなお寺に縁を持っていたく機会は、今後さらに必要になっていくと感じますし、私自身も関わらせていただければと思います。

### 「あそべる！子ども用品チャリティ販売会」

担当 富樫 沙織さん

(新潟教区若坊守会／第17組妙音寺)

若坊守会では、ご寄付いただいた絵本やおもちゃで自由に遊べるブースを設けました。気に入ったものは購入でき、売上金は「新潟県フードバンク連絡協議会」へ寄付させていただきました。

初夏とは思えぬ暑さの中、2日は会場のクーラーが壊れるハプニングもありましたが、暑さをものともしない子どもたちの賑やかな声と、気に入ったおもちゃを大事に抱えていく姿は、スタッフとして励まされる思いでした。

お寺で人と人が集う御坊市は、新しいけれども懐かしいお寺の風景を教えてくれたように思います。



## ～村山委員長から御坊市のお誘い～

「御坊市」が開催される三条別院は歴史のある場所にあります。その歴史ある場所で、80店舗以上の店が並び、そして僧侶と触れ合うことができるという、他にはない催し物だと思えます。今までお寺や仏教に興味がなかった方、ご縁が無かった方にこそ、一度遊びに来ていただいて、共に時間を過ごしていただきたいと思います。まずは一度、足を運んでみてください。



## 2026 御坊市について

【日 時】2026年6月20日(土)～21日(日) 10:00～16:00

【場 所】三条別院／〒955-0071 三条市本町2-1-57

【問合せ】gobouichi@gmail.com

※詳細はホームページ等で随時発信中 ➡

【ホームページ】



<https://gobouichi.com>

【Instagram】



gobouichi

門徒の

# 声

高田別院報恩講

「帰敬のつどい」

感話者インタビュー



高田別院報恩講（2025年10月9日～12日）

高田別院の報恩講では、過去に帰敬式を受けられたご門徒の方々に、帰敬式を受けられてから今日までに感じられた思いなどの感話を述べていただく「帰敬のつどい」を実施している。今回、2025年高田別院報恩講において感話をされた2名のご門徒にお話を聞いた。

第5組林正寺（上越市）

法名

釋尼陽春

井部 春美さん（78）



第6組法林寺（上越市）

法名

釋敏昭

南雲 敏昭さん（69）



## 母を見送ったあとの空しさ

母を見送ったあと、心になんとなく空洞ができてしまったという井部さん。そんななか、同朋の会推進員（※）である従兄弟に、お寺に行ってみるように勧められた。言われるがままに行ってみると、周りはみんな推進員であった。お寺に通ううちに自分も帰敬式を受けたいという気持ちになった。

2019年に同朋の会推進講座を受講したが、新型コロナウイルスの影響と家庭の事情で前期教習まで修了、後期教習での上山はできず、法名をいただくという願いは叶わなかった。上山の願いを持ち続けながら、2024年に聴講生として参加でき、晴れて後期教習を終えた。帰敬式における剃刀の儀では、ようやく御真影の前に自分の身を置き、法名を賜うことができたことで自然に涙が溢れた。

## 従兄弟とみんな一緒に

南雲さんはお寺の住職とは親戚関係にあたり、他の従兄弟3人と一緒に住職から同朋の会推進講座に誘われて、帰敬式を受式した。推進講座の講義の内容など、一人だと不安に思うことが、従兄弟と一緒に安心できたという。

同朋の会推進講座で上山された際に、同朋

会館で昼食に出てきたカツ丼に驚いた。それまでお寺で出てくる料理と言えば精進料理のイメージがあったからだ。その時の講習で、宗祖親鸞聖人は自らを非僧非俗の凡夫であると名告<sup>なづか</sup>ったことを学び、肉食妻帯をすることに納得した。上山する前はどのような講習をするのか不安だったが、同朋と座談を繰り返していくうちに自信がついていった。期間中一緒に過ごした仲間との強い絆が生まれ、自らが進んで動いていくことの大切さを実感した。

## 帰敬式を受けてから変わったこと

「母はこんなふうになっていたな」と母のお参りの姿を思い出しながら、お内仏の前に座っておつとめをする機会が増えたと井部さんは話す。以前はせわしなく形だけのおつとめをしていたことを改め、お花を供えるなどのお給仕も丁寧にするようになった。お寺にも一層足を運ぶようになり、お寺の様々な行事にも積極的に参加している。

一方南雲さんは、以前はお内仏の前では「願い事」ばかりしていたという。それが上山後には、感謝の気持ちや今がんばっていることなどの近況報告をするように変わった。日々の生活の中での心構えというものがはっきりとし、さらにお寺に多くの人が足を運んでもらえるよう自ら進んで声掛けをしていきたい

と意気込んでいる。

## お寺に対して思うこと

「ありがたいなという気持ちですね」と井部さん。住職には寺役<sup>じやく</sup>（月参り）で月2回家に来てもらい、じっくり話をする機会もある。お寺のお講に参加すると、他の人からも色々なことを教えてもらったりする。住職からのお便りにも親鸞聖人のことがわかりやすく書かれており、とても感謝しているという。

一方、南雲さんは、お寺の活動が活発で、ほとんどの行事に参加しているが、そういった活動をどんどん増やしてもらいたいと話。最近は新型コロナウイルスの影響で休止していたお斎もやり始めているので、「和気あいあいと楽しむことがいいですね」と、お寺の行事が活発になっていくことを望んでいる。

【2025年10月9日／

伝道広報室 上宮 崇】

（※）同朋の会推進員・・・お寺や地域で「同朋の会」という「お寺に人が集まって語り合う場」を、お寺の人と協力して開き、自らも参加していく門徒のこと

ヒマな日も、

じっは 大ピンチでいっはい?!

まちがえた! わすれた! やっちゃった!

だれにでも「大ピンチ」ってあるよね。

「なんにもないな〜」って 思っている日にも、  
よ〜く 見てみると、ドキドキするタネがかくれているよ!

だい **大ピンチずかん**

**2**



鈴木のりたけ

小学館

ひとつのピンチの中に  
「はあかしい」「つらい」「イライラ」「ふあん」  
いろんな気持ちが いっしょにやってくるんだ。

その気持ちをグラフのかたちにして  
どの気持ちがどれくらい大きいのか  
ひと目でわかる!?

あなたの気持ちは、  
本と同じかもしれないし、  
グラフのかたちとちがうかもしれないし、  
べつの気持ちがあるかもしれないね。

さあ、あなたの大ピンチの中にある、  
自分の気持ちを見つけてみよう!!



【オススメした人：トラメイシ】

だい **大ピンチずかん** **2**

鈴木のりたけ さく  
小学館 発行

# 通信員だより

## 通信員からの声を

### おどけします

新潟教区は27の組にわかれており、教区内の情報共有を主な目的とした「通信員」が、各組から1名ずつ担当していただいております。毎号全カ組の半分を掲載いたします。

#### 第1組 清雲寺 渡邊 顕哲

「これでいいのだ」、一度は耳にしたことがあるだろう『天才バカボン』のバカボンのパパさんの台詞なのだ。昔はなんとも思わなかったが、いざ意識してみるとこれほど口から出にくい言葉も中々ない。

私達は口頃から欲にまみれて生きている。「美味しいものを食べたい」「裕福な生活をしたい」「健康でいたい」など様々だ。これらは裏を返せば今の自分の否定である。理想通りにならない自分を認められないのだ。良いこと悪いことをただあるがままに受け入れて、「これでいいのだ」と心の底から自分を認められるような生き方は是非してみたいものだ。

#### 第2組 常圓寺 鈴井 祐恭

第2組善正寺ご門徒の小林強さんが、2025年より参議会議員に就任されました。

小林さんは、各種審議で年4回京都に赴く大役の一方で、上山の都度毎回2ページの「参議会だより」を独自に発行し、10月時点で4回配布されています。内容は、参議会の紹介、審議の報告と感想、新潟教区選出議員や関係者の皆様との交流、滞在中の京都での過ごし方などを分かりやすく楽しい文面でレポートされています。

議会が身近に感じられ、「伝わる表現が要め」と広報活動の教示も得ておりますが、あらためて「ご門徒の皆様、寺院、教団が双方向で発信する事の大切さ」に気付いた次第です。

引き続き小林さんの「参議会だより」の発行をよろしくお願い申し上げます。

#### 第5組 智願寺 大道 智竜

ちょうど一年前のこの欄で、5組では若手僧侶と門徒会の交流を積極的に行っているというお話を書かせてもらいました。今年度は12月に私が講師となる番で何を話していいやら悩んでいました。10月のとある日、私宛に郵送が届きました。差出人は、大学時代お世話になった教授からの物でした。開けてみると、昨 year 上越支部の同窓会で来られた時のお話などが小冊子になって出版したのでご活用くださいと小冊子とともにコメントが添えられていました。大学時代と同じように困っている教え子にまたそっと手を差し伸べて下さるんだなと目頭が熱くなりました。今年はその小冊子を使ってお話をさせてもらいました。これからも小さな出会いを大切にしていきたいとおもいます。

#### 第3組 正光寺 高橋 良暁

高田別院で列座をしている高橋です。

10月から11月にかけて、高田エリアにある高田別院、稲田支院、新井別院の報恩講が滞りなく厳修されました。高田別院では、鍵役の宣心院殿に御参修していただき法要と帰敬式が行われました。お手伝いをする中で、私自身、改めてその意義を考える機会になりました。また、3組では新型コロナウィルスの流行以来、久しぶりに青少年の活動を行いました。今年は夏休みに「夏の集い」と題し小学生がボウリングを楽しみました。スタッフも本気になって楽しみました。

#### 第10組 西方寺 桑田 正寛

組内の2026年の報恩講予定がわかる日程表を3月に発行します。必要な方は10組にお問い合わせください。

組が主催する行事として、報恩講は3月14日(土)に柏崎市産業文化会館を会場に、真城義麿氏(真宗大谷派善照寺(愛媛県)住職)から「ふかきみのりにあいまつる」をテーマにした法話と同朋唱和による法要、仏教文化講演会は6月20日(土)に柏崎市文化会館アルフォーレを会場に、星貴氏(長岡戦災資料館アドバイザー)による講演会を予定しています。

#### 第4組 正行寺 芳野 良英

私達第4組は11カ寺の小さい組ではありますが、年1回「移動組会」と称して1泊2日の研修旅行をしております。

研修旅行では、主に新潟県内の御寺院参拝・各名所拝観等を行っており、参加した住職方と共に過ごす日程は楽しい時間であります。

また、楽しいだけではなく自坊等で分からないことなど、質問・疑問を教えていただく貴重な時間でもあります。

私自身は毎年楽しく参加させていただいております。

#### 中越11組 願誓寺 菅原美瑠香

自分でお齋を作りたく、コロナ禍に精進料理の資格を取りました。そして青少年部部長となり、先日研修会を行いました。

一回目はごま豆腐作り。練りごまと丁寧にごまをすって作ったごま豆腐を食べ比べました。手間暇かかりましたが、風味の違いに驚き改めて素材の良さを知ることができました。

お齋作りの大変さに気づき、今までお齋を作ってた方への感謝の思いを込めて継承していきたいと思っております。

中越12組 安浄寺 安原 陽一

中越12組では、現在「第7期真宗講座（同朋の会 推進講座）」を開催しております。

当組では、約5年に1回の割合で開催しております。講師には齊藤研先生にお越しただいております。今回は32名の方から受講していただいております。



第21組 超願寺 富沢 栄昌

去る8月30日（土）新潟市民プラザにて、21組公開講演会が開催されました。「生死を超える道と現代」をテーマに、今回は高橋源一郎先生をお招きしました。来場者数は約350名。最近のお墓事情や、親鸞と『歎異抄』を中心に話しました。

分断が広がりAーが発展する時代、改めて人間の役割とは何かを考えるとき、宗教や文学のようない対一の関係が必要とされているといった内容で、作家ならではの視点からの信仰と救済の解釈が興味深かったです。

中越13組 善行寺 松野 祐

当組では、「同朋の会推進講座 間法道場」で語られて寺いこて」が10月の「まよめの講座」をもって閉講となり、新たな推進員が23名誕生した。講師の大久保州師には、毎回佐渡から出向していただき、有難いことに最後まで私たちに深く関わってくださった。受講者のひとりとして、大切な言葉や問いかけを頂いた。仏法僧を宝とする生き方から問われている「わたし」。縁ある方々とともに、語り合う場を大切にしていきたい。



第22組 善龍寺 花房 憲証

「特伝」22組は特伝を続けている組です。広い組なので各地域（村上、胎内、新発田、紫雲寺、聖籠・松浜地域）で4、5日かけて講師の方をお願いして回ってもらったのが数年前までのやり方でした。

講師や組内役職者の負担も多いので、現在はどなたでも参加できる公開講演会で今の社会問題を仏教に問いかけて対談も付けています。春には案内できる予定ですので是非、沢山の方々にも来ていただき、ご感想をお聞かせください。

第17組 護念寺 細川万里絵

日本国憲法の第十四条には「すべて国民は、法の下に平等であつて、人種、信条、性別、社会的身分又は門地により、政治的、経済的又は社会的関係において、差別されない」と記してあります。日本が目指していた国ってなんだかお浄土みたいだな、と感じます。

参院選の後から『日本のよさ、日本人らしさ』という言葉とセットで排外的な言葉が叫ばれるようになりました。それはインターネットの世界だけにとどまらず、現実の世界でも形となって存在しています。これから先、世界はどうなってしまうのだらうと思うと体の中がドツと重くなるようです。

第18組 福泉寺 藤田 恵日

最近、高校卒業以来十年ぶりに、同じクラスだった宮司（神主）の友だちと再会した。見た目は変わっていないが、立場が大きく変わっていた。僕は住職となり、彼は宮司となっていた。この十年でお互いを取り巻く環境ががらりと変わり、若くしてお寺と神社の後を継いだ。

仏教と神道の話、住職と宮司の話。後を継いだ経緯や将来に向けての話。すごく濃密で、充実した時間だった。不安も葛藤もあったけど、お互いやるしかなかった。なにか心と心で会話できた気がして嬉しかった。

## 「お寺のLINE講習会」開催のお知らせ

連絡手段としてのLINEの普及に伴い、お寺の公式アカウントを取得して運用する寺院も増えており、次世代が「お寺に気軽に連絡できる」方法の一つとして、公式LINEアカウントのメリット、デメリットを確認しつつ、実際の導入の手続きやすでに導入している方の困り事などを皆さんと共有したく開催します。

【オンラインツール「Zoom」での開催です】

【日時】2026年1月20日（火）13:00～15:00

【講師】池田唯信氏（浄土真宗本願寺派浄徳寺住職）

【対象】どなたでも

【参加費】無料

【申込み】右のQRコードから

【締切】1月13日（火）

<主催・問合せ先>

新潟教区伝道広報室

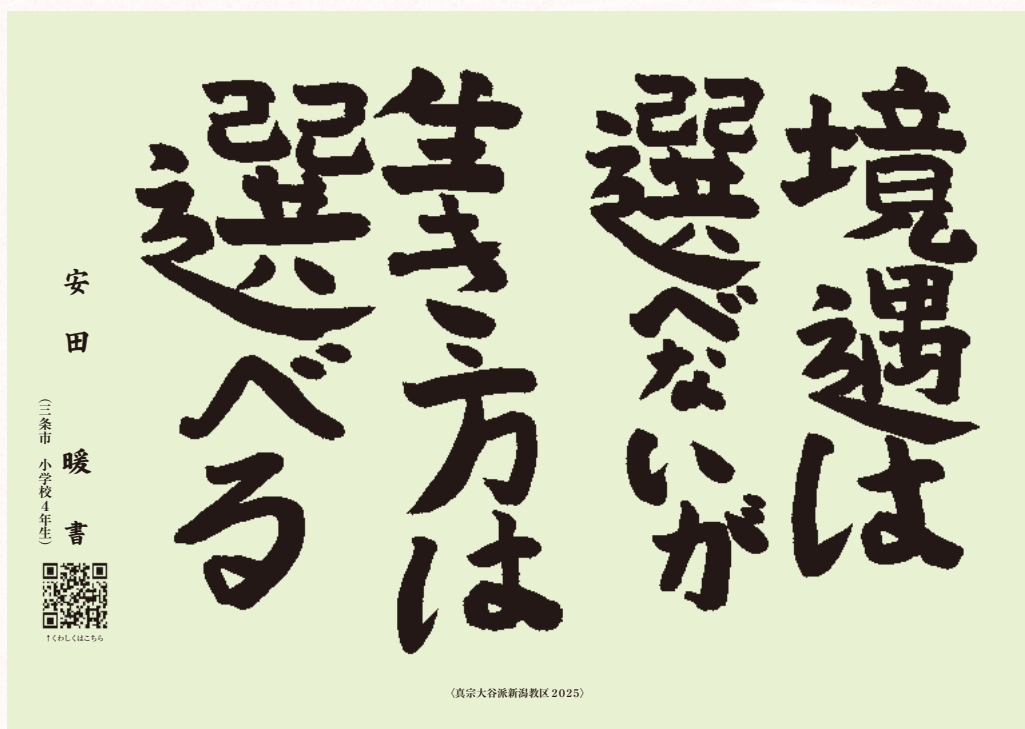
✉niigata.dendou@gmail.com



<http://bit.ly/48ngvA8>

# 法語ポスター紹介

(2025年度①)



「境遇は選べないが生き方は選べる」

筆耕者：安田 暖 (三条市 小学校4年生)

〔法語選定者より〕

この言葉は、ある先生のご法話の中のお言葉です。正確には、お話の中で感銘を受けた内容を私が短くまとめたものです。一人でも多くの方にお伝えしたいという一心でした。こうして自坊の山門掲示板の言葉にしました。

数日後、近所のケーキ屋さんに行くと、ご主人に呼び止められ、「今月のお寺の掲示板の言葉がとても響きました」と言われました。さらに、「悩みの尽きない境遇に負けず、今日からまた頑張っていく勇気をもらいました」と。

言葉の持つ力は生活者の中に広がっていく。そんな小さな感動を覚え、この言葉を選ばせていただきました。

倉井 光弥 (中越11組養泉寺住職)

## 編集後記

御坊市実行委員長の村山さんが三条別院のおすすめスポットを教えてくださいました。「奥に書院があり、池に面した縁側で、のんびり過ごしてみたいです」。

書院は御坊市企画「説教部屋」の会場でもあり、2025年は「仏教とは何か」がテーマでした。私がお話するご縁をいただいた折、来場された方々と縁側に腰を下ろしました。

池の水は澄んでいませんでしたが、それもお寺らしい風情で、少し緊張していた私の目には、なぜか落ち着く景色に映りました。蒸し暑い日だったからこそ、そよぐ風が肌を撫でる心地よさは格別で、光や水面の揺らぎに、思わずほっとする瞬間もありました。

あの時間に触れると、「仏教とは何か」という問いも、特別な答えを探すより、「いま・ここ・私」をそっと感じるところから開かれるのだと、自然に思えてきます。(虎石)

発行所：真宗大谷派（東本願寺）

新潟教務所

新潟県三条市本町2-1-57

Tel 0256-333-2805

発行者：藤 信磨

編集：新潟教区伝道広報室

制作：永田印刷株式会社